

## 富士川中流域アユを育む・清流プロジェクト 第1回 WG アユに関する勉強会1（座学）

日程： 令和4年10月6日（木）10:00～  
場所： 早川町役場 会議室  
題目： 「アユの生活史」、「アユの生息環境」  
講師： 山梨県水産技術センター 2名  
参加者： プロジェクト参加機関 32名／6機関



### 講義

#### ・アユの生活史

アユという魚について

一般的なアユの生活史（産卵、降海、成長<海>、遡上、成長<川>、成熟）

アユのタイプについて（両側回遊型、陸封型）

#### ・アユの生息環境

アユの生息に影響を与える環境要因（流砂量、巨石率・浮き石率、濁り、瀬・淵構造）

アユにとって悪い環境

アユにとって良い環境

### Q&A

Q：養殖アユの生活史（行程）を教えて欲しい。

A：採卵は秋（10月頃）に行う。飼育水温は海水より若干高いため、天然アユより成長が早い。年明けには鱗もでき始める。成長の良いものから選別し、天然より時期が早い2-3月頃には順次淡水飼育に切り替える。4-5月に5cm程度まで成長した稚魚を河川に放流する。

Q：採卵に用いる親魚はどこから持ってきたものか？

A：センターで継代飼育している親魚を使うが、遺伝的に劣化することを考慮し、数年ごとに駿河湾産の天然アユを追加し親を入れ替える

Q：陸封型と回遊型のサイズの違いはあるか？

A：一般的に回遊型のサイズは成魚で20cm前後となり、湖産アユはそれより小さい。しかし、湖産アユも池で飼育した場合や河川放流後は大きく成長し、両者の見分けがつかなくなる。このことから、餌条件や生息環境により最大のサイズが決まると考えられる。

Q：堰など河川横断構造物の魚道の改善方法のアドバイスをお願いしたい。

A：横断工作物があると工作物の上流で河床勾配が緩くなる、瀬・淵がなくなるなどの影響がある。魚道が設置されていても、適切に管理されていないと、遡上できない場合がある。

Q：今年の天然アユの豊漁の要因は？

A：早川からの濁りが少し落ち着いたこと、環境配慮、流量等様々な要因が重なった可能性が考えられる。

【講師意見】

県内各地の漁協では、アユの放流に対して多くの経費をかけている場合が多く、生息環境の悪化、冷水病の蔓延、カワウによる食害で、ただでさえひっ迫している漁協経営に大きな打撃を与えている状況である。